

R18
ADULT ONLY



脚本: cyers
作画: えぐた



ふうい

最近の
刺激のなごり
感じるち...



今日も平和な
日々を過ごす
日本。

その文明の輝きは
あまりにも凄まじいもので、
夜中さえ照らすものである。

だが、光が眩しければ
眩しいほど、

映される影の
闇も更に濃く
なるのである。

そして、この眩しく
光る社会の裏側には
人間の暗い欲望がまんまに
解き放たれる泥溜まりが
存在する。

この名もない裏社会の
ナイトクラブでは

男女がお互いの
生々しい性的欲望を
ぶつけ合い

先に絶頂した者が
『敗北者』とみなされ、
相手の奴隷と化する、
とても野蛮な
『掟』が決められている。



そしてその閉ざされた
秘密の社会でももちろん

序列関係っていうものが
生まれて

その序列の頂点に立つ
者たちもいる。



ここにも

あつらひ

その「頂点」の中の
一人がいるのだが…

あつらひ



はあ…





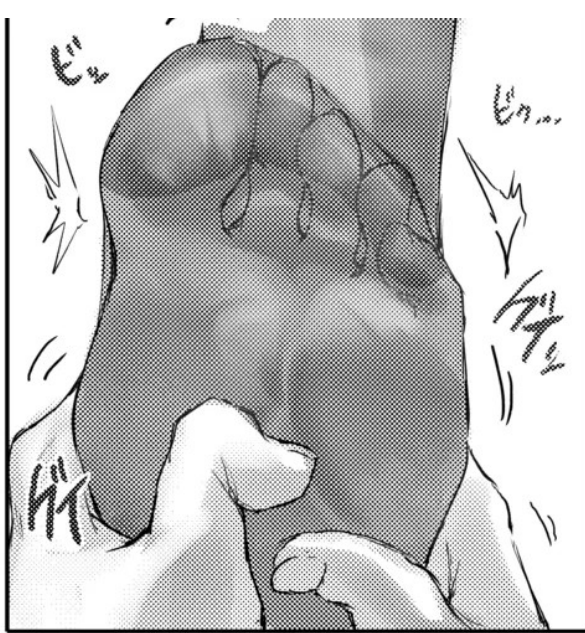
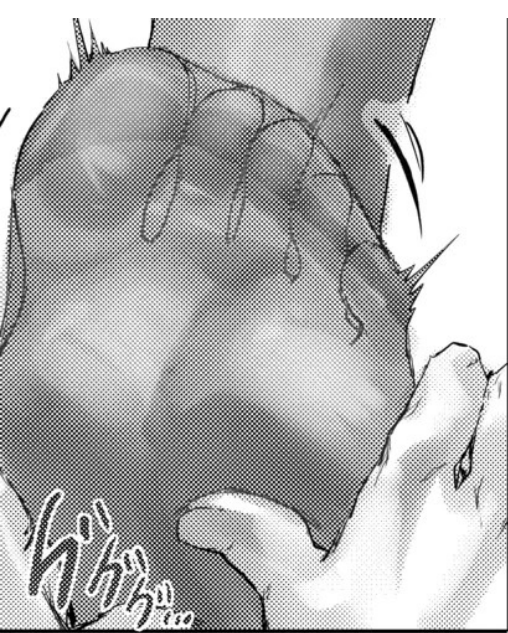
くっそ…

誰もかも

アイツのせいで
私のこと…

バカに
しやがって…

アア
腹立つわ…



このド下手くそ
どもめが!

なんなのよ、
そのマッサージ!

やるなら
ちゃんとして
やりなさい、
ボケエエ!

どうせアンタラも
私のこと裏から

くすくすとバカに
してるでしょ!

ああもう...

どいつも
こいつも...

役に立たない
やつらばかり...

アイツが来てから
奴隷共も身のほど
知らぬ反抗心を...

おん...

アイ...

おん...

おん...

おん...





いきなり…
頭が…



ハア…今夜は
ワインの味も
最低だわね…



あつ…
あれ…?

く…く…く…
と…



一体…

なにが…

んん…

あれ…？

私…
確か…

いきなり
眠くなつて…

ん…
ん…
ん…

ど…
ど…
ど…

ていうか…

なななななっ

なにこれ!?

足を…!
動けないわ!





『女王』様。



おはよう
ございます、



は、放しなさい！

この私を誰だと
思っ…！

こんな
真似を…！



あ、

アンタは…！



そ、そんな
バカらしい
コトで…!!

悪ふざけにも
ほどがあるわ!



ガタ //

ガタ //

あくまで前回の勝負で
お互い同意した結果に従って、
お前を奴隷にしてるだけだが？

何をそう
慌てとる。



ガタ //

でも勝負はあった以上、
お前が今まで男子どもに
してきた様、

オレもオレの筋は
通させていただくぜ。

じゃあてめえが
今まで散々コケ使って
きた男子共の事もただの
悪ふざけだけなのか？

自分のことになったら
すぐ「冗談です」とか
言い出しタマだとは
思ってたかったけどな。



わあわあ

舐めんな

おい。



そもそもね!

あの時は私、
イってないから!

カッ

そ、それは
ただの...!



ふ...

ふざけ
ないで!

あんな勝負一回に
そこまでで意味付与
するんじゃないわよ!



お...

おもらし...
だったし...

いくらなんでも
何言っただ、
私イイイイ!



た、

ガッ



ただの...



クツクク...

そこまで
負けを認めたく
ないのか？

女王なのに
プライドも
クソもねー
すぎだろ！

クツク



プツ



あー
そっか... まあ...

そんな恥ずかしい
ことまで言うお前の

とても健気な
姿に免じて、

再び勝負して
白黒ハッキリするに
決めた。

キリキ...



やかましいわよ！
とにかくノーカン！

や、

あーん

じゃあ

こんなことは
どうかね？

今更チャラに
したって、オレが
お前に恥を
かかせたのは事実だ。

今回こそお前の
完全勝利。

だから、その恥辱の
思い出を晴らす為には
今回はオレからの一方的な
攻めを耐えてみたら

実はお前はオレよりも
超つえーやつだし、前回の
オレとの勝負はただの
マダレってことになるでしょ。

いいじゃない。

これで本当に、

白黒ハイツキリ
できるわね。

今回こそアンタに負けることになったら…



私の完全敗北。

私も、アンタにそんな口をたたかれたら

もう意地でもアンタがだらしなないだっせーイキ顔してるのを眺めながら

大爆笑でもしてあげないと気がすまないの。

ほお…
本気が？



へっ…

むしろ、本気じゃないなら

こんなおもしろい勝負に乗れるぐらいまであるわ。

そう…

私だって女王ってのプライドは持つてる。



こいつに負けた以来、長い間の権力と立ち位置で安易な生き方をしてきたこの私に



久しぶりに…「闘志」つてものが再び火が付いたの。

そして誰にも言わずに私の



最側近だけにだけ頼み、

特訓に特訓を重ねて来たんだわ

今まで足が削られて消えそうにな



なにを企んでるか…
解せぬやつだわ…
てっか…

ふん…



いいよ。

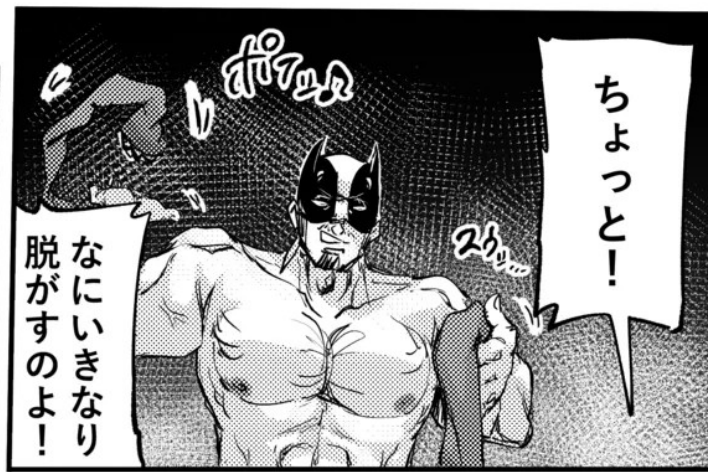
受け取って
まいるぜ。



な…
なんなの、
これ…

一体を始めよう…

ふんっ！なにによしようとも
今回の私は一味違うわよ…！



ちよっと！

なにいきなり
脱がすのよ！



い…

そんなに
いきなり…



今のは全然
感じてないわ

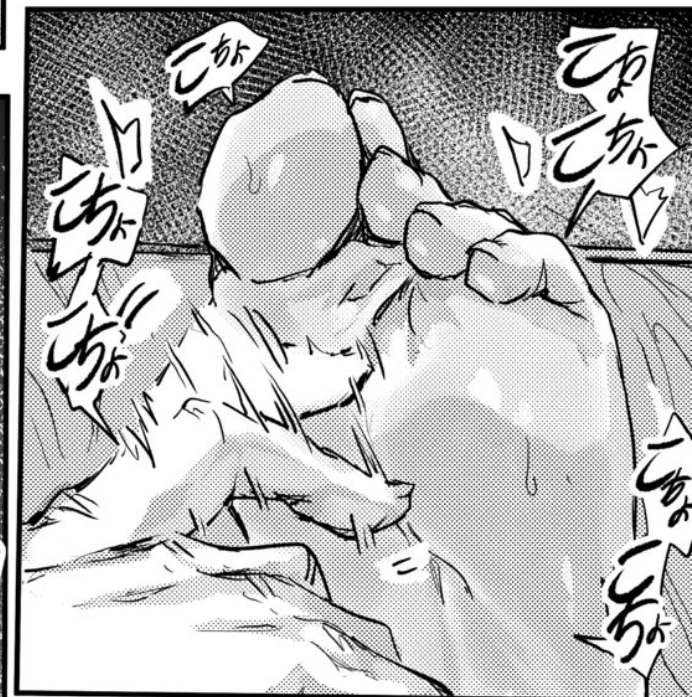
あっ、いや

姿勢がおかしいから
つれんじやあってつい
変な声が…



ひゅあぁ!

ドホ...



うっ…

くっ…

ほ…ホント
ザコね…

ひゅあぁ…

ひゅあぁ…







ハアーハハハハハッ!

アハハハハハハッ!



うーっひよ
ひよひよーう

うひよひよ
ひよひよ!



ちよっと…あはっ
休憩…!ひひっ

ちよ、や…
やめろ!



ほ、本当に
まずい!
勝負どころじゃ
ないからあゝ!

きやはははーっ!



負けたことに
するわよ!
うひひっ、
負けを
認める!

ほ、ホント
や、やめなさい!

マジでー!
ははっ、
そう!







奴隷どもの
マッサージが
気に食わん
様子だったから

もしかして
杞憂だったかな？

まあまあ。



ひやっ！
マッサージはやめろ……！

ひ



この男の
ことにになると……

こんなに
感じやすく……！

な……
なんで……



ん……！

ないでしょ……！

この程度で……
満足するわけ……



な、
なんで…
ただ足を
触れられる
だけで

ここまで…
身体が熱く…

電気が通るような
ゾクゾクが…



まあ、だといえ誰にも
初めて素直になるのは
結構気が回らないもんだし、

ここはオレの方から
人肌脱いでやるよ。

よし、こうすれば…
どんだけ頑固なやつでも
口が開けるはず…



身体は
こんなに素直なのに

人はもっと素直に
なった方がいい時も
いっぱいあるぜ♪

口の方はあんまり
素直じゃないみたいね！

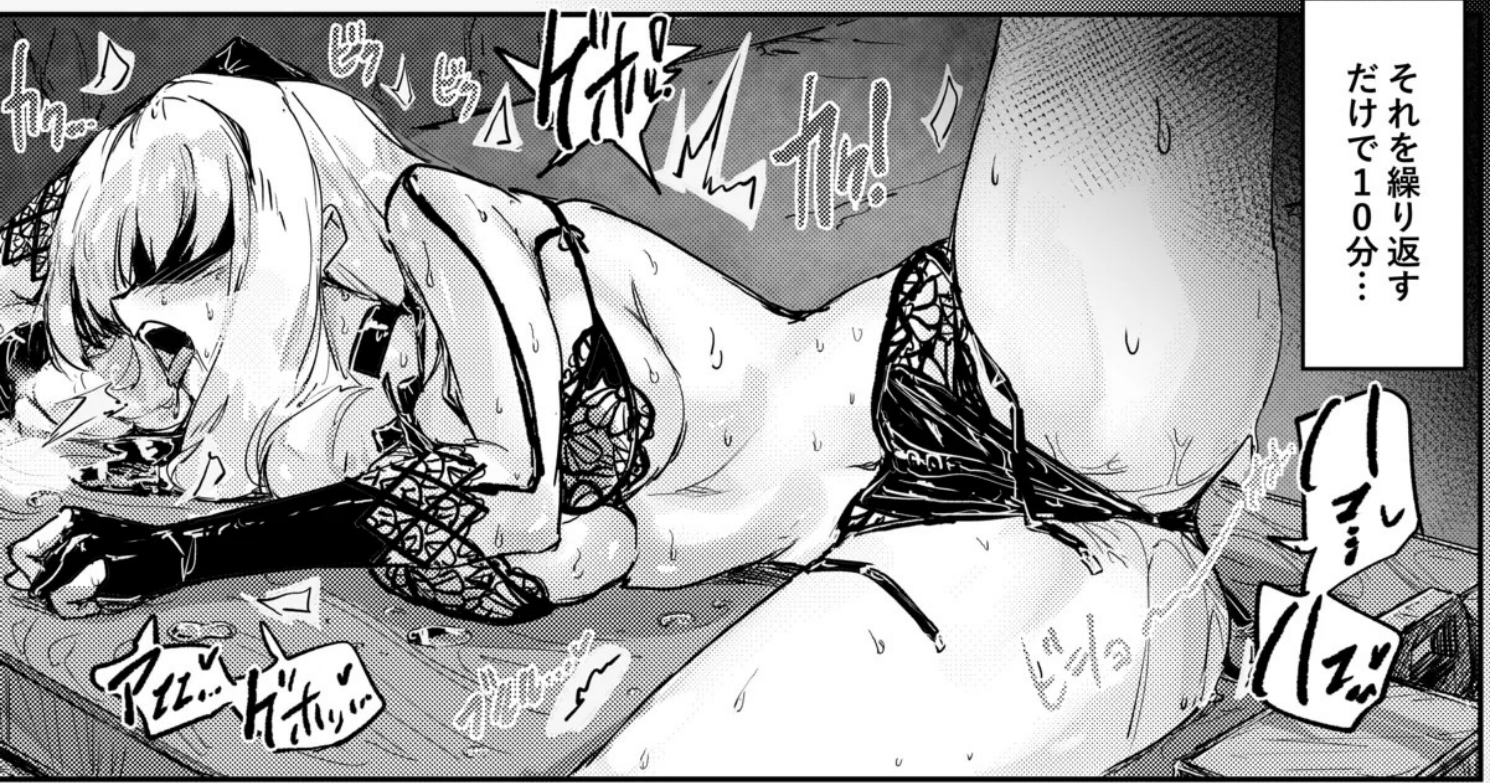


か：
感じちゃう…

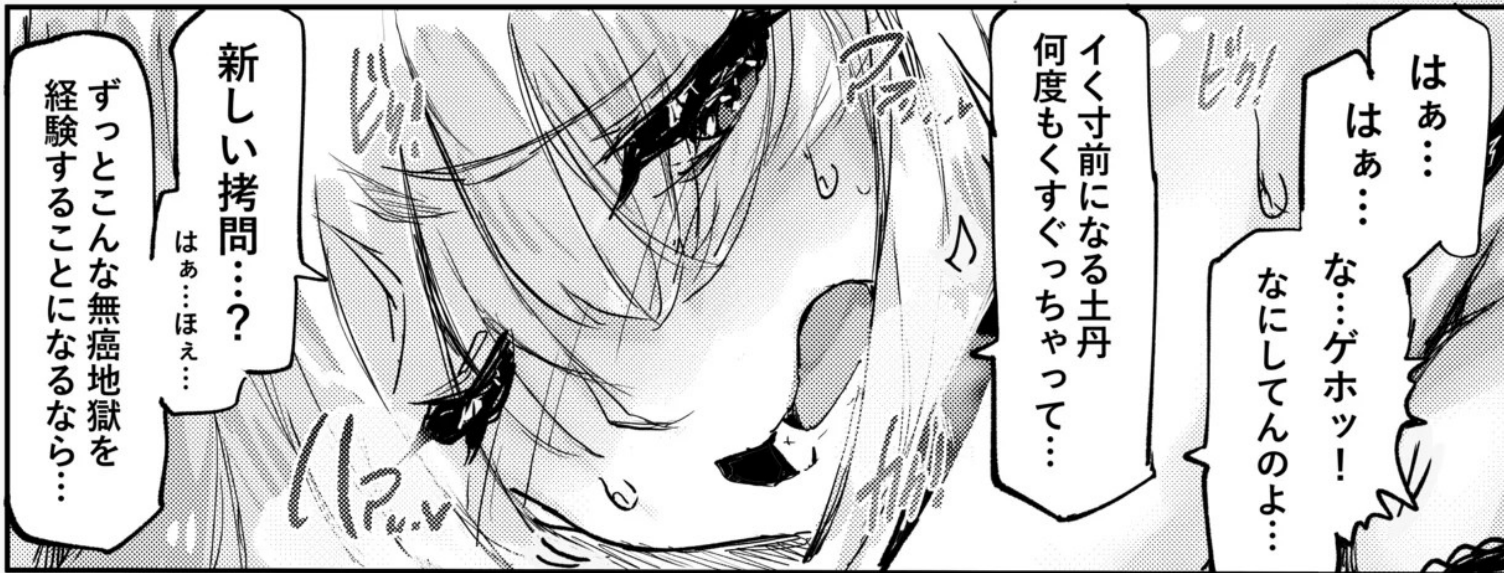
ああっ…

ま、また
くすぐり!?

また
気持ち悪い…♡



それを繰り返す
だけで10分:



はあ...

はあ...

な...ゲホッ!

なにしてんのよ...

いく寸前になる土丹
何度もくすぐっちゃって...

新しい拷問...?

はあ...ほえ...

ずっとこんな無癌地獄を
経験することになるなら...



おいおい。
「イかせろ」って?

お前、

今度こそ

それがどういう意味か 確実に奴隷だぞ。
分かって頼んでる
わけだよなア?



は...

はやく...頼むから...

ゲホッ!

一層...!

い...イかせて
...!



頼むから...
っ...

ま...
負けを...
み...
認める...
から...!

い...
い...
イかせて...
ほしいの...♡

は...
はやく...!

...める...

...と...



やっぱり…
『足女神』っていう
あだ名は伊達では
あるまいな…!!

うっ…!!

Good



前回にもその
片鱗を
味わったが、

流石の
フットジョブテクニク
『足サバキ』だッ…!!

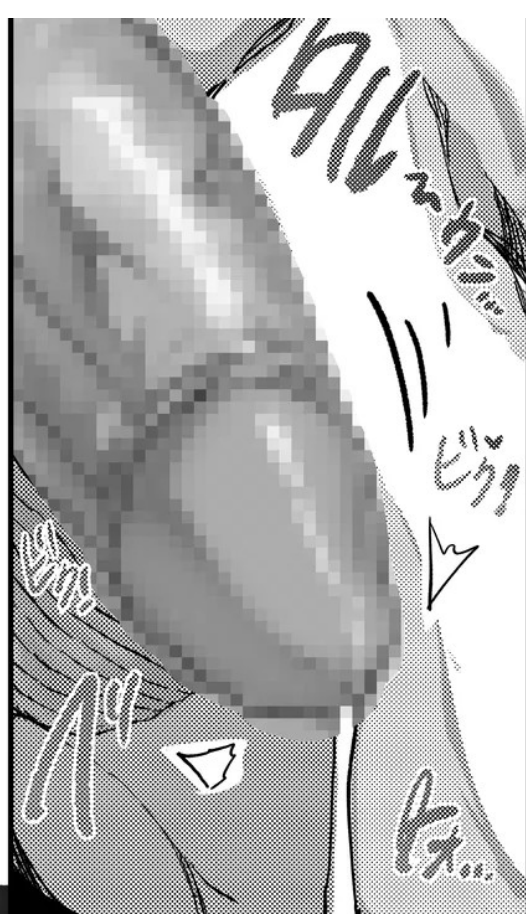
あああん…♡

もっと…♡

もっと私の
足を感じさせ
なさい♡



いいアクメ
だったわー…
ほぼ同時では
あったけど、
勝負的にはどう
なるんかね？



…
あゝあゝ…
もう会話成立とか
無理そうやな。
まあ。
意識保ってる俺の
勝利ってことにして
いいかな？

おお

や…やだ…

へおお

今まで感じたこと
ないこの快感…

この歳になって…
男の前で下品な顔
しながら汚い小便を
ぶっ放してるのにも…

これ…
絶対…

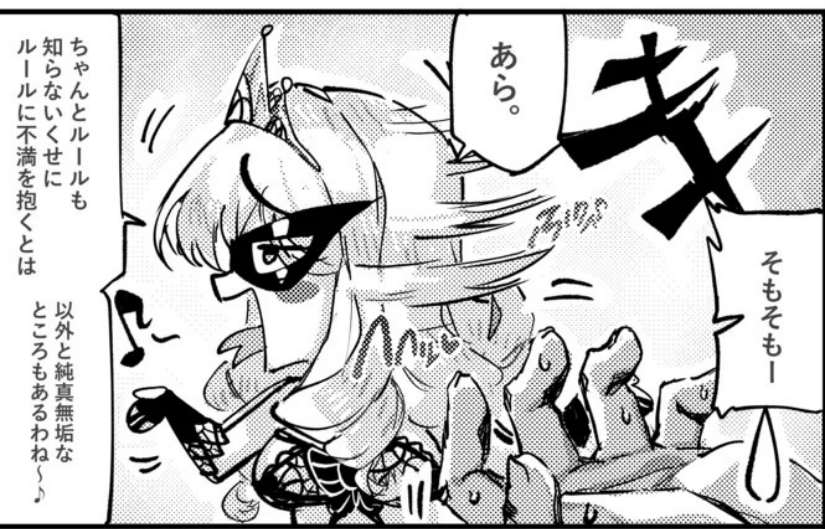
癖に…
なっっちゃう…



まあ。
そーいうわけだね。

明らかに共倒れなら、
女王の私に勝利の
優先権が与えられる
のが通りだけど、

今回はその頑張って
イかせようとした姿を
大目にて特別に引き分け
つてことにしてあげるわよ♪



あー。
キ

そもそもー

ちゃんとルールも
知らないくせに
ルールに不満を抱くとは
以外と純真無垢な
ところもあるわね♪



ふっ
ふっざ
けんなー！

小便の湖作りながら
気を失うまで派手に
イっつといて

なあ〜にが
「特別に引き分けに
してあげる〜」だッ!?



私だったらこんな
挑戦する前にイッチバ〜ン
先にルールぐらいは
事前調査するけどね〜

アンタ、もしかして
規約書とか読まずに
後に自分が違反して
ドヤされたら文句言う
タイプかなあ〜?

社会生活とかあんま
経験ない甘ちゃん
だったりにして〜♪
クフツ

キヤア〜ツハハハ
ハハ、アハハハ！
かわいいわね〜♪

あははっ♪

おっほほっ…

羞恥

.....





な、なんで…

また足枷を…

ほ、ほんの
冗談よ…

やあ、だ…
冗談も通じない
だなんて…

おほほ…



えっ…



十分後



かかた…

わ…
かかたから…

も…許して…

何度モ…
イ…たがら…

あ…

後書

どうもみなさん、えぐたです。サニーサイドだったりエッグタルト
だったり名前変えすぎてちょっと混乱するお方がいたらごめんなさいね！
それはともあれ、今回もまたこの『足女神征服記』の
依頼を任せられ、このようにまたお会いできるようになりました。

依頼主さんが前回の作品をとっても気に入ってくださったので、
こんな風にまた依頼をくださり、とても光栄だと思っております。
今回の作品を作った時のやり取りでもとても気に入ってくだ
さって、描いた私もかなり遣り甲斐のある仕事でした。そろそろ
作品に対する強い愛着を感じるところです。

前回に比べて腕も上がって絵柄もすこし違うような気がして、
自分の実力の発展をちゃんと見れたのがかなり嬉しかったですね。

まあ、作品自体の話をする、なかなか好きな作品ができてかなり
ご満足であります！実は依頼主さんは最初の一作目ではヒロイン
に対して別のデザインやキャラを想定していたようなのですが、(もっと
上品で凛々しい系を考えてたようです)こういう風に結構生意気で
小物感がすごいお嬢さんの方になって、個人的にはかなり趣味だし
(どS的な意味で)依頼主さんもかなり「こっちもいいですね〜」って
なってくれて嬉しかったですね。

主人公の方は実はあんま考えたことないんですが、デザインが未だに
思うとかなり「なにこれ」って感じで好きだし、表紙の作業配信してた
時にも海外リスナーの方に『NTRバットマン』とか呼ばれてこっちも
なかなかそれなりの愛着が出始めましたねw

世間しらずの生意気な女王さまを筋肉バキバキの謎のマッチョが
メス堕ちさせるっていうストーリーがかなり趣味だし、私はギャグ大好き
マンなのでエロい要素だけじゃなくて色んなおもしろ要素も思う存分
ぶち込めて描くのがかなり楽しかったり〜

また今度があるかはこっちからどうこう言うべきではないのですが、
次にもこのシリーズで漫画を出すことになったらその時をすごく
お楽しみにしてるかも、してないかも？(匂わせ)

では、この漫画を楽しく読んでくださったって願いながら、
また今度〜


Commissioned work
Client: cyers (Pixiv)

Pixiv: えぐた (/users/9448265)
X: えぐた (@egtamarumaru)

© 2025 えぐた All Rights Reserved



絶対
許さないから



Pixiv : えぐた
(pixiv.net/users/9448265)

X : @egtamarumaru

発売日 2025-09-27